

福島県楡葉町宝鏡寺への「原発悔恨・伝言の碑」建立と「伝言館」開設(順不同)



原発悔恨・伝言の碑



伝言館



上野の東照宮から移設された「非核の火」



伝言の灯および原発悔恨・伝言の碑



伝言館の準備作業



展示する絵手紙を宝鏡寺本堂で書く安斎



展示準備中の「福島プロジェクト」メンバーと
かがわ出版の樋口修さん(右端)



伝言館の準備作業



「伝言の灯」点火式



「原発悔恨・伝言の碑」の除幕
(早川篤雄住職と安斎)



挨拶する早川篤雄第 30 世宝鏡寺住職



「地球市民賞」をもって挨拶する安斎

この写真集の写真は「福島プロジェクト」の山口英俊さん、かもがわ出版の樋口修さんらにより撮影されました



地球市民賞を紹介する安斎



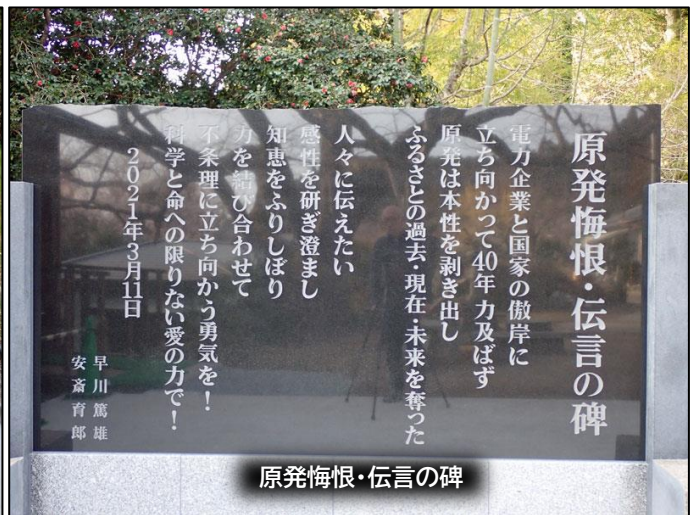
右から小野寺弁護士、早川和尚、安斎



ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ伝言の灯



ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ伝言の灯



原発悔恨・伝言の碑



「ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ伝言の灯」点火式







ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ伝言館



ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ伝言館(1階)



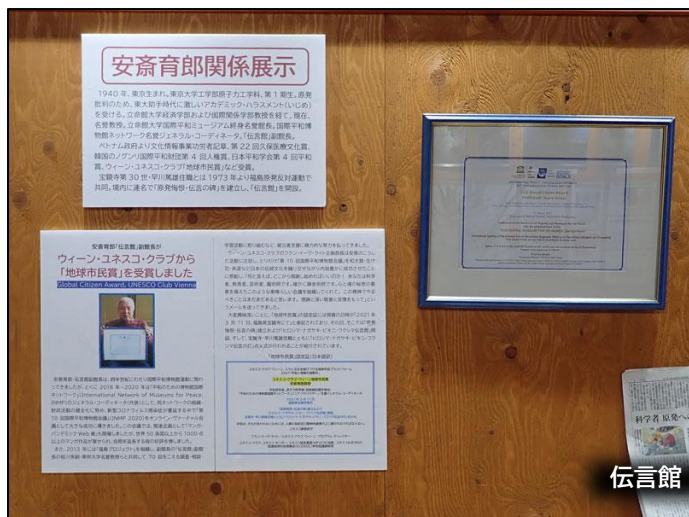
伝言の灯と原発悔恨・伝言の碑
伝言館の窓から集会所を見る

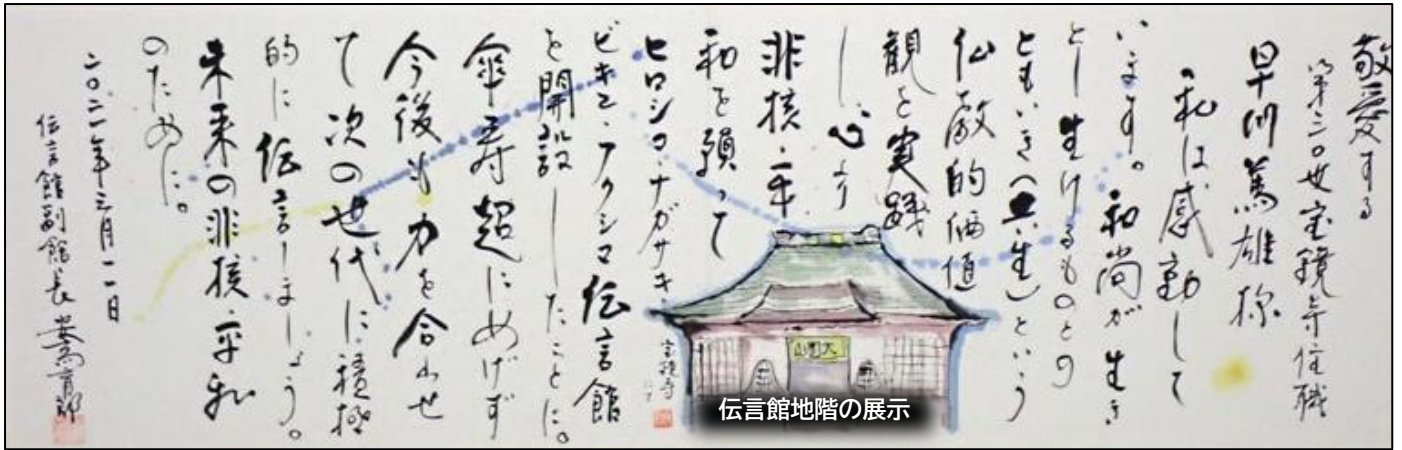


東京大学工学部原子力工学科第1期生の頃の学生証 (1963年)



伝言館1階の展示





伝言館とは？

伝言館館長の早川篤雄・宝鏡寺第30世住職と副館長の安斎育郎・立命館大学名誉教授は、半世紀近く原発批判の活動で共同してきました。

2018年9月、安斎が「原発悔恨・伝言の碑」の碑文を起草し、早川住職ともども、原発事故から10年目の2021年3月11日、宝鏡寺境内に連名で記念碑を建立することとしました。

折から、上野の東照宮境内に灯されてきた「広島・長崎の火」を宝鏡寺に移設する計画が進められ、早川住職はこれに「ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ伝言の灯」と命名しました。

「伝言」を共通のキーワードとして計画を進める中で、早川住職は将来にメッセージを伝える博物館を開設する構想をあたため、これに「ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ伝言館」と名づけました。館長は早川篤雄住職、副館長には国際平和博物館ネットワークの名誉ジェネラル・コーディネータである安斎育郎に加えて、被災者支援のための「福島プロジェクト」で長年共同してきた桂川秀嗣・東邦大学名誉教授も加わりました。

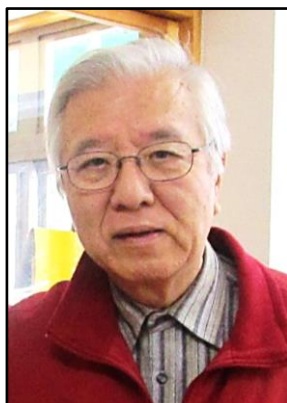
伝言館は人類が核の被害を繰り返さぬために、今後もメッセージを発信し続けたいと思います。ご支援ください。

館長



早川篤雄

副館長



安斎育郎

副館長



桂川秀嗣

福島プロジェクト・チーム

「福島プロジェクト」は、安齋育郎（安齋科学・平和事務所所長）、桂川秀嗣（東邦大学名誉教授）、山口英俊（株式会社 SWR）、早川敏雄（合資会社・太陽エンジニアリング）、橋詰義晴（フリーエンジニア）、小藪康則（元高校教員）、片山一美（事務局、安齋科学・平和事務所秘書）のメンバーがボランティアで進めている福島第一原発事故（2011 年 3 月 11 日）の被災者支援プロジェクトです。

被災地の保育園・小学校や公共施設や住宅地、要請のある個人宅や農地などを訪問して放射線環境を調査し、どうすればより被曝や汚染を減らして、リスクを最小化できるかについて出来るだけ実践可能で具体的方法を提言します。被災者の立場で考え、被災者とともに悩みながら、調査・相談・学習活動に取り組みつつ、状況の改善をめざしています。

「福島プロジェクト」の基本理念

「福島プロジェクト」は、「放射線は被曝しないに越したことはない」という立場を基本に、「放射線から身を守る 4 つの方法（除染・遮蔽・距離確保・被曝時間短縮）」を実践的に応用し、被災者の被曝をできるだけ少なくすることを目指します。

低レベル放射線の影響については、科学者の間にもいろいろな主張があります。「少しでもあびるとがんによる死亡のリスクが高まる」という主張から、「少し浴びた方が体にいい」という「放射線ホルミシス」という主張まで、さまざまです。また、年間の被曝限度についても 1 ミリシーベルトとか 5 ミリシーベルトとか 20 ミリシーベルトとかいろいろな主張がありますし、『美味しんぼ』で有名になった「鼻血は原発事故のせいかな？」という問題でも議論百出でした。

「福島プロジェクト」はそのような論争には深入りしません。火事を目の前にして「消火に必要な水量は何リットルかな？」とか、「バケツで水をかけるのがいいか、霧状に噴霧するのがいいかな？」とか、「原因は寝タバコか漏電かローソクの火かな？」とかいった論議に深入りして消火活動を手控えるのではなく、火事場の状況に応じて実行可能な消火活動を遅滞なく進めることが大切だと感じています。放射線影響についての論争に関しては、それぞれの問題についての専門家がいかなる科学外的な圧力や介入を排し、根拠のない予断や思い込みに陥ることなく、フェアな論議を深めることが何よりも大切だと考えています。

当面、私たちは、被災地の放射線環境を科学的に見立て、「事態を侮らず、過度に恐れず、理性的に向き合う」よう心がけながら、放射線被曝をできるだけ少なくするために「実行可能な方法」を旺盛に試みたいと思います。放射線環境の見立てに当たっては、できるだけ被災者ととともに現場に身を置き、被災者が不安に思っていることによく耳を傾け、情報や気持ちを共有しながら納得のいく対応策を模索していきたいと願っています。

80 の面々

「伝言館」の天井の梁には、安齋副館長が 30 年に渡って集めた世界のお面が展示されています。

世界にはさまざまな文化がありますが、平和的共存のために互いに認め合い、異文化理解を進めることが期待されています。



ウィーン・ユネスコ・クラブの「地球市民賞」を受賞しました

安齋育郎

ユネスコ・クラブ・ウィーンというユネスコの公式 NGO で国連経済社会理事会の特別協議資格団体から「地球市民賞」という賞を頂きました。

届いた認定証からは授賞理由が明示的には読み取りにくいのですが、おそらく「平和のための博物館国際ネットワーク」(INMP)に四半世紀かわり、とくに 2018 年からの 3 年間はジェネラル・コーディネータとして第 10 回国際平和博物館会議(INMP 2020)を新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延という状況のもとで大きな成功に導いたことや、70 回にわたって福島に通って被災者支援に取り組んでいる実践的放射線防護学者としての活動などが評価の土台にあったのだと思いますが、とても興味深いことに、授賞の日時と場所は「2021年3月11日 福島県宝鏡寺境内」となっているのです。

「地球市民賞」認定証(日本語訳)

ユネスコ・クラブ・ウィーン 人々と文化を結びつける地球市民プラットフォーム
2021「平和と信頼の国際年」

ユネスコ・クラブ・ウィーン地球市民賞
安齋育郎教授

平和研究者、原子力科学者(放射線防護学専攻)
「平和のための博物館国際ネットワーク」シニア・アドバイザー／名誉ジェネラル・コーディネータ

2021年3月11日
福島県宝鏡寺境内

「原発悔恨・伝言の碑」建立および
「ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ伝言館」開設
宝鏡寺・早川篤雄住職とともに「ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ伝言の灯」点火式

平和は、それが失われないためには、人類の知的及び精神的連帯の上に築かれなければならない。

ユネスコ憲章前文

フラン・イーヴ・ライト／ユネスコ・クラブ・ウィーン プログラム・ディレクター

ユネスコ・クラブ、ユネスコ・センター、ユネスコ協会連盟(WFUCA)加盟、ユネスコ公式 NGO
国連経済社会理事会(ECOSOC)特別協議資格者

この認定証には受賞者・安齋育郎の国籍や性別、年齢などは一切書いていないし、福島県ってどこの国の地名なのかさえ書かれていません。さすがは「地球市民賞」ですね。

2021年3月11日14時から福島県双葉郡楢葉町の室町時代以来の古刹・宝鏡寺では、第30世住職の早川篤雄さんの指揮で3つのイベント企画が予定されています。

第1は東京・上野の東照宮から「広島・長崎の火」が「ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ伝言の灯」として移設され、その点火式が行われることです。第2は、その隣に早川篤雄住職と安齋育郎の連名で「原発悔恨・伝言の碑」が建立され、その除幕式が行われることです。第3は、その隣に「ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ伝言館」がオープンすることです。ユネスコ・クラブ・ウィーンもなかなか粋なことをするものです。

実は、昨年9月に INMP 2020 が開催された折、ユネスコ・クラブ・ウィーンのフラン・イーヴ・ライト(プログラム・

ディレクター)から、私に、「親愛なるイクロウ、何と言え、どこから感謝し始めればいいのか！ あなたは科学者、教育者、芸術家、魔術師です。確かに錬金術師です。心と魂の秘密の要素を備えたこのような素晴らしい会議を組織してくれて。この精神でやるべきことはまだまだあると思います。感謝と深い敬意と友情をもって、フラン」(Dear Ikuro, What can one say and where does one start to thank you! You are a scientist, an educator, an artist, a magician: indeed, an alchemist - such a marvelous conference with the secret ingredient of heart and soul. I believe there is more for us to do in this spirit. with gratitude, deep respect and in friendship, Fran)というメールが来たのですが、フランはこの時点で今回の授賞の腹を決めていたんだと推定します。

12月に授賞の予告のメールが来て認定証の起草過程に入りました。面白いことに、認定書の下書きが来て、「間違っていないか？」「付け加えることはないか？」などと相談があったことです。2〜3度やりとりをして最終文案が決定したのですが、それにしても面白い授賞文化ですね。本来の授賞理由が書いてないし、「福島之宝鏡寺」って何なのかその正体も書いてない。イヤハヤ、楽しかったです。

これまで頂いた賞(2004年のベトナム政府からの文化情報事業功労者記章、2011年の第22回久保医療文化賞、同年のノグンリ国際平和財団第4回人権賞、2014年の日本平和学会第4回平和賞)は、いずれも予感もなく突然通告されたもので、その都度「えっ！」という感じだったのですが、今回の「地球市民賞」もそうでした。私は昨年9月のNMPのオンライン総会の最後に、イギリスのピーター・ヴァン・デン・デュンゲン理事(前ジェネラル・コーディネータ)が緊急動議を提出し、「2021年1月1日付で安斎育郎に名誉ジェネラル・コーディネータの称号を与える」と提案し、それが決議された時点で、INMPの仕事に関しては十分に報いられた気がしていました。「恥の上塗り」ならぬ、「名誉の二階建て」です。もとより自分一人の力量で成し遂げた成果であろうはずもなく、これまでお力を貸していただいた皆さまに心から御礼申し上げます。

3月は3日〜6日、9日〜13日を福島で過ごします。10年前の福島の参加をもう一度新たに心に刻み、今次の受賞に恥じない生きざまを心がけたいと思います。今後もよろしくお願いします。

